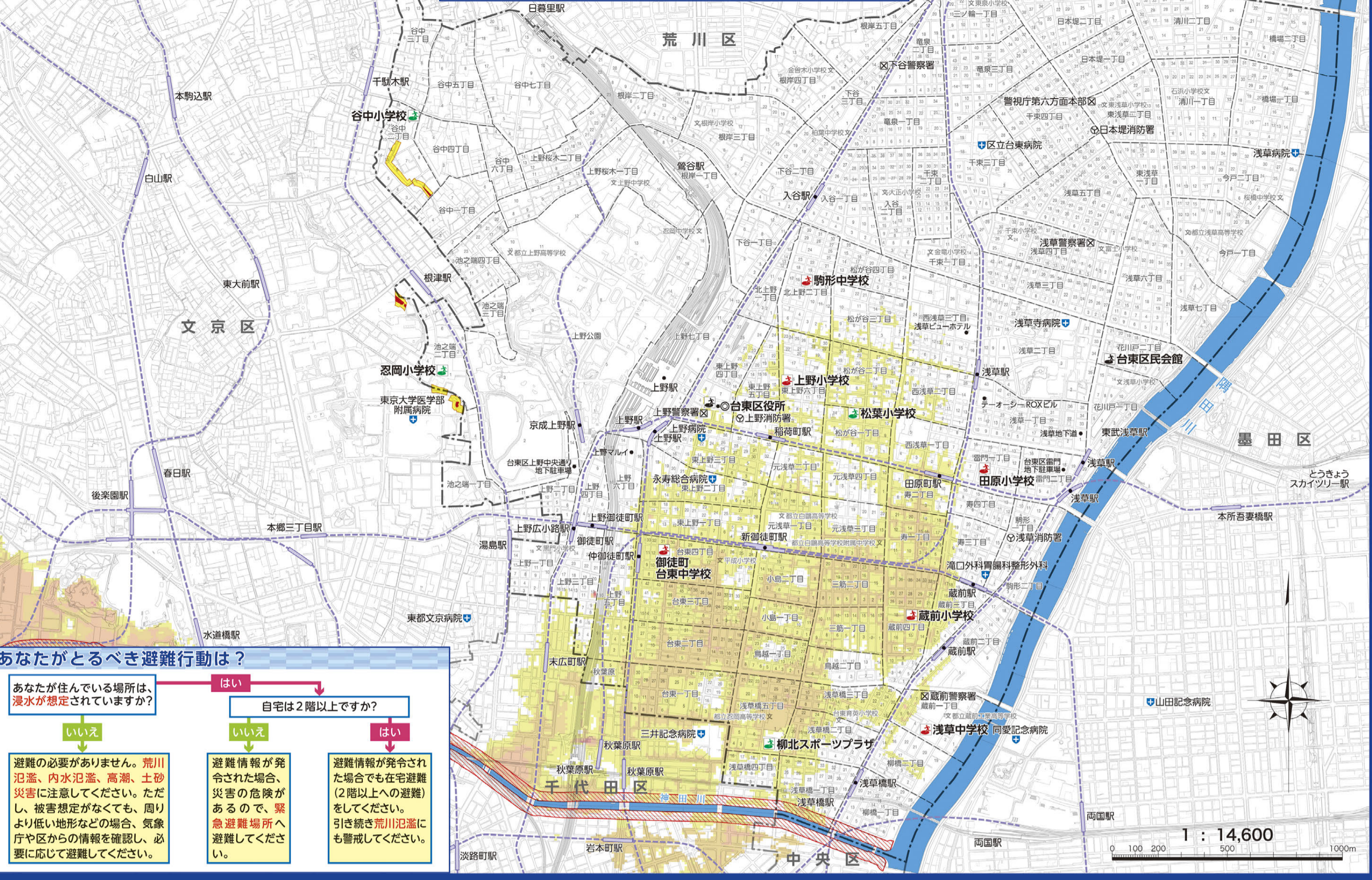


神田川水害ハザードマップ

～神田川が氾濫した場合～

【浸水想定区域・家屋倒壊等想定区域(河岸侵食)】
神田川水害ハザードマップ(浸水想定区域)について
 この地図は、東京都が作成した「神田川流域雨水出水浸水想定区域図」を基に、浸水想定区域と浸水深、避難場所などを示したものです。想定しうる最大規模の降雨(総雨量690mm、時間最大雨量153mm)を基にシミュレーションを行っています。



あなたがとるべき避難行動は？

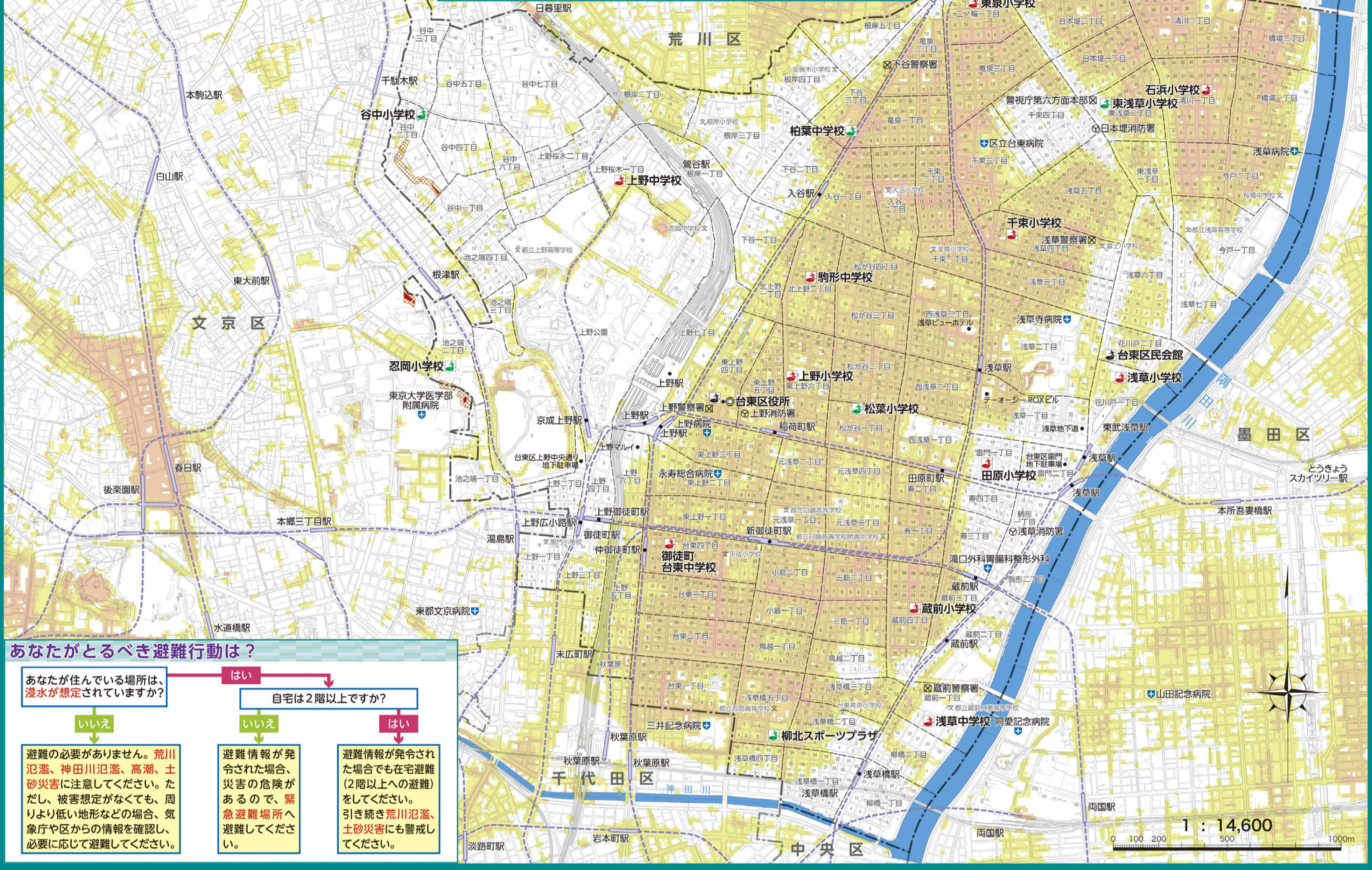
あなたが住んでいる場所は、浸水が想定されていますか？

- いいえ → 避難の必要がありません。荒川氾濫、内水氾濫、高潮、土砂災害に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周より低い地形などの場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。
- はい → 自宅は2階以上ですか？
 - いいえ → 避難情報が発令された場合、災害の危険があるので、緊急避難場所へ避難してください。
 - はい → 避難情報が発令された場合でも在宅避難(2階以上への避難)をしてください。引き続き荒川氾濫にも警戒してください。

内水氾濫ハザードマップ

～大雨により下水などの排水が追いつかなくなった場合～

【浸水想定区域】
内水氾濫ハザードマップ(浸水想定区域)について
 この地図は、東京都が作成した「神田川流域雨水出水浸水想定区域図」(隅田川及び新河川流域雨水出水浸水想定区域図)を基に、浸水想定区域と浸水深、避難場所などを示したものです。想定しうる最大規模の降雨(総雨量690mm、時間最大雨量153mm)を基にシミュレーションを行っています。



あなたがとるべき避難行動は？

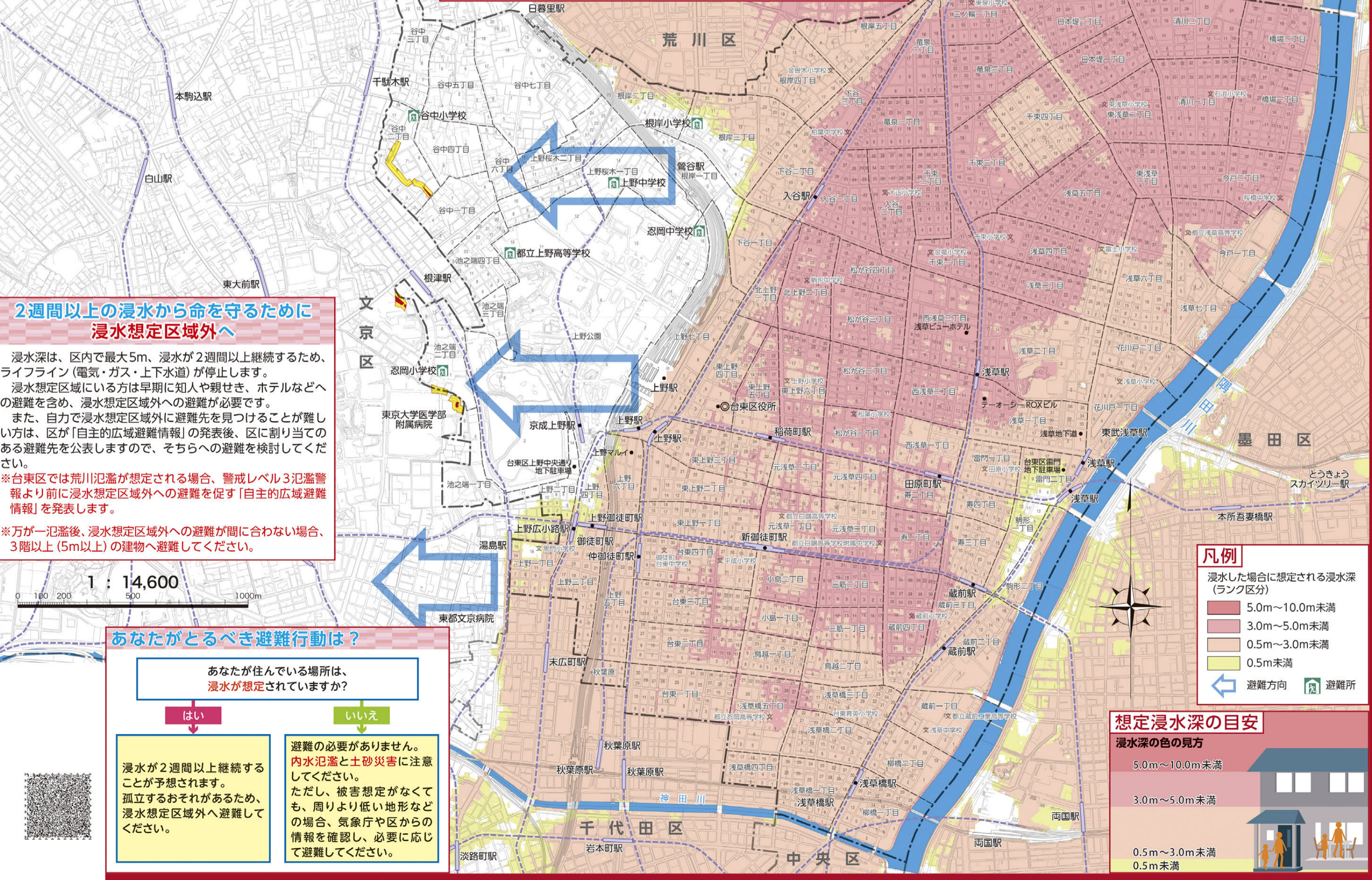
あなたが住んでいる場所は、浸水が想定されていますか？

- いいえ → 避難の必要がありません。荒川氾濫、神田川氾濫、高潮、土砂災害に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周より低い地形などの場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。
- はい → 自宅は2階以上ですか？
 - いいえ → 避難情報が発令された場合、災害の危険があるので、緊急避難場所へ避難してください。
 - はい → 避難情報が発令された場合でも在宅避難(2階以上への避難)をしてください。引き続き荒川氾濫、土砂災害にも警戒してください。

荒川水害ハザードマップ

～荒川が氾濫した場合～

【浸水想定区域】
荒川水害ハザードマップ(浸水想定区域)について
 この地図は、東京都が作成した「荒川流域洪水浸水想定区域図」を基に、浸水想定区域と浸水深、避難場所などを示したものです。想定しうる最大規模の降雨(荒川流域の72時間総雨量632mm)を基にシミュレーションを行っています。



2週間以上の浸水から命を守るために浸水想定区域外へ

浸水深は、区内で最大5m。浸水が2週間以上継続するため、ライフライン(電気・ガス・上下水道)が停止します。浸水想定区域にいる方は早期に知人や親せき、ホテルなどへの避難を含め、浸水想定区域外への避難が必要です。また、自力で浸水想定区域外へ避難先を見つけることが難しい方は、区が「自主的広域避難情報」の発表後、区に割り当てのある避難先を公表しますので、そちらへの避難を検討してください。

※台東区では荒川氾濫が想定される場合、警戒レベル3氾濫警報より前に浸水想定区域外への避難を促す「自主的広域避難情報」を発表します。

※万が一氾濫後、浸水想定区域外への避難が間に合わない場合、3階以上(5m以上)の建物へ避難してください。

あなたがとるべき避難行動は？

あなたが住んでいる場所は、浸水が想定されていますか？

- いいえ → 避難の必要がありません。内水氾濫と土砂災害に注意してください。ただし、被害想定がなくても、周より低い地形などの場合、気象庁や区からの情報を確認し、必要に応じて避難してください。
- はい → 浸水が2週間以上継続することが予想されます。孤立するおそれがあるため、浸水想定区域外へ避難してください。

凡例

- ※家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
- ※家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)とは、洪水の流れにより河岸が侵食され(崩れ取られる)おそれがある区域を示しています。
- ◎ 区役所
- ◎ 消防署
- ◎ 警察署
- ◎ 救急病院
- 地下街等施設
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 境界
- 町・丁目界
- 河川
- 地下鉄および地下鉄道

想定浸水深の目安

浸水深の色別の見方

- 5.0m～10.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 1.0m～3.0m未満
- 0.5m～1.0m未満
- 0.1m～0.5m未満

外水氾濫

大雨などにより河川の水位が上昇し、堤防から水が溢れたり、堤防が決壊して起こる現象です。台東区では、荒川氾濫と神田川氾濫が対象となります。なお、隅田川については岩淵水門の操作が行われるため、氾濫の想定はありません。

内水氾濫

地表面の多くがアスファルトに覆われている都市部で、短時間に局地的な大雨が降ると、下水道や排水路による排水が追いつかなくなり、建物や土地、道路などが浸水してしまふ現象です。

避難場所の種類

自主避難場所/緊急避難場所 (早期に開設する避難場所)
 自主避難場所は、避難情報が発令されていない段階で、自主的な避難を希望する方に、開放するものです。避難情報の発令後は、緊急避難場所として運用します。

緊急潜在施設 (帰宅困難者等受入施設)
 緊急潜在施設は、自主避難場所の開設と同時に、帰宅困難者などを受け入れる施設として開設します。

※これらの施設は、水害から一時的に身の安全を確保する場所であるため、区が開設、運営します。

荒川氾濫

- 浸水深は、区内で最大5m。浸水が2週間以上継続するため、早期に知人や親せき、ホテルなどの避難を含め、浸水想定区域外への避難が必要です。
- マンションにお住まいであっても、孤立を防ぐため、浸水想定区域外への避難が必要です。

神田川氾濫

- 集中豪雨による急激な水位の上昇が発生します。
- 浸水深は、区内で最大3m。ほとんどの地域で12時間以内に水が引きます。
- 近年、貯留施設(環状七号線地下調整池など)が整備され氾濫の発生を防いでいます。

特徴

- 降雨から浸水被害が発生するまでの時間が短いです。
- 河川から離れた場所でも浸水が発生します。
- 浸水深が深く、浸水継続時間も短いです。
- 区では、無理に外に出て避難するよりも、自宅が2階建以上の場合は、2階以上に避難する在宅避難を推奨しています。
- 地下空間やアンダーパス、周辺に比べて低い場所は浸水被害が発生しやすいです。

